

【要約版】

令和4年度 第1回高島市図書館協議会

開催日時：令和4年6月21日（火）15時30分～17時15分

開催会場：高島市立今津図書館 視聴覚室

出席：國松会長、平松副会長、山本（富）委員、福原委員、桂田委員、山本（恵）委員、井上委員、山本（永）委員、梅村委員

事務局：山本教育総務部次長、玉木館長、志村主監、原田

欠席：嶋崎委員、桑原委員、田川委員、吉川委員

1. 教育総務部次長あいさつ

教育現場においては、市内小中学校の児童生徒に一人一台タブレット端末が貸与されるなど、急速にデジタル化が進んでいる。一方で、ネットからすぐに回答が得られるため、立ち止まって考えるということができないとの意見もある。こういったことから、読み解く力が、ますます大切になってくるので、読書は欠かせないと感じている。

また調べ学習などで、学校図書館が充実しているところでは、児童生徒が落ち着いているという報告もあり、図書館が果たす役割も今まで以上に重要になってくると考える。

2. 図書館新規職員自己紹介

- ・玉木智恵図書館長
- ・平山由美子参事（今津館勤務）

3. 会長あいさつ

昨年度3回目は、コロナの影響で書面開催となったため、委員の皆さんとは、久しぶりの顔合わせ。昨年度中は、コロナ禍であったが、県内で長期に閉館したところはほとんどなかった。利用の方は、どこの図書館も低迷したが、今年度は少しましになるのではと期待している。こういった状況下でも、市民に図書館を利用してもらうためには、図書館側も色々工夫して運営を続けてもらう必要があると思う。

今回は、年度の最初ということで、今年度の運営方針や昨年度一年間の利用状況等もある程度まとまったので、そのあたりを数字だけでは表れない、普段図書館に足を運ばれて皆さんが感じられているところを、忌憚ないご意見としていただきたい。

以下、協議事項内容と質疑応答等。(○=報告内容 ●=委員意見 ⇒回答)

協議事項 1: 「令和3年度事業概要報告」について

○貸出冊数: 491,185 冊 (前年比 105.3%)。

貸出のべ人数: 97,835 人 (前年比 105.7%) ←本を借りた人数

来館者のべ人数: 104,928 人 (前年比 112.5%) ←図書館に来た人数

予約件数: 48,027 件 (前年比 112.9%)

登録者のうち実際に借りられた実人数: 31,870 人中 7,394 人

○13~16 ページは、平成 23 年度との利用状況の比較。(カラーグラフ)

今津図書館の減少が目立つ。原因を分析する必要があると考えている。

17~22 ページは、昨年度の運営事業、読書振興事業など。

- 令和3年度の貸出冊数総合計を、人口1人当たりで割ると人口1人当たり 10.5 冊。
昨年度が 9.8 冊だったので若干アップしているといえるが、高島市総合計画には、1人当たり 14 冊となっているので、喜んでいられない。
- 安曇川(図書館)が令和2年度に長期休館した際、周囲の館の利用者が増えた。(安曇川の利用者が他館を利用したため)しかし今回のデータを見るとその利用者が、定着しなかったことが見て取れる。
- 図書館に来る人が増えても利用に繋がらない。のべ来館者数は 112%増なのに貸出冊数は 105%。理由はなにか?
- 実利用者数が、人数でしか書かれていないのでピンとこない。自分で率に直してみたら 15.5%。実に 85%の市民が一度も図書館を利用していないことになる。図書館側は、これをどう考えるのか?
- 登録者数の 31,870 人は、累計では?人口が 46,000 人ちょっとの市で、この数字はおかしい。死亡者なども含まれているのでは?今の図書館システムでは死亡者を全部(自動的に)消していけないのか?
⇒この数字は、現時点での有効カード件数。死亡された方は、届け出があった場合にカードを除籍している。
- 登録者の有効期限は決めていないのか?
⇒在学資格登録(市外から通学)は、卒業年の3月末日。通勤資格での登録については、2年前のシステム更新時に有効期限をいったん切り、資格が失効していないかを確認した。在住資格での登録(市民)については、期限を設けていない。

●31,870人というのは、発行済み枚数ということでもいいのか？

⇒現在、利用できる人数。

●高島市の有効登録者（実利用者）数だけでは、多いか少ないかわからないので、他の自治体と比較してはどうか？

●カードの登録は、利用者の住所で地域分けをされているのか？

⇒カードを登録された館（登録館）で分けられる。

例：今津の住民が安曇川図書館で登録すると、安曇川登録になる。

●登録者の住所で、分けられるべきではないのか？

⇒はっきりと言い切れない。調べておく。

●統計としては、地区ごとの登録率。地区の人口での割合で出すのが通常。細かく出している自治体だと丁町別です。市内のどの図書館を使ってもいいというのだからこのやり方で出すのがいいと思う。

⇒地区ごとの登録者数は、出すことができると思う。

●22ページの「本の森探検事業」の実施が少ない。子どもたちが小さな時から、図書館や図書室に馴染んでいくこの事業がものすごく大事だと思う。もう少し広めていければと思う。今年度コロナが収まれば増えていくかもと期待して見守ってきたい。

⇒今年度すでに1件受け入れているので、徐々に盛り返していくのではないかと考えている。

●昨年度は、初めて蔵書数が6,000冊ほど減っている。前回の協議会で、古い本が多いという意見が出ていたが、廃棄を始めたのか？良い悪いではなく、選書に十分配慮して行ってほしい。

●図書館の蔵書回転率＝活発に本が利用されているという指標の一つ。

18ページの「他の自治体との比較」の蔵書数100人あたりというのを元に蔵書回転率を出したところ、高島は0.72（1回転もしていない）。全国平均が約1.3。蔵書数よりも貸出数の方が多いというのが普通。高島は、利用されていない本が圧倒的に多い。（同様に長浜市も0.88。蔵書90万冊。長浜は今年度よりほぼ半減するまで除籍を行う）

●利用されない蔵書が多いと管理ばかりが大変。棚が詰まりすぎて、借りたくなるような本が目立たない。

- 学校図書室も、リニューアル後は、冊数は減っているけれども、読みたい本が目立つのか、利用率が上がっている。ただ、廃棄作業が大変なので、図書館の業務をしながらというのは人手が足りないと思う。
- 古い本ほど、複数冊ある。(合併前の購入分か?) 廃棄のあり方をもっとスムーズになるように進めてほしい。
- 高島市は60万冊くらい蔵書があるが、人口規模からいうと40万冊くらい減らしてもいいかと。それぞれどのくらいの蔵書が適切なのかは、図書館が考えるべき。相当長い期間をかけて行う作業。
 選書については、管理運営規則にあるように館長の責任。市民に代わって図書館の本を選ぶので、十分配慮して収集にあたっていただきたい。
 ⇒選書には一定の基準、選書基準を設けており、それにそって専門の職員が選んでいる。

協議事項2:「令和4年度高島市立図書館運営方針」について

○1~5までは、昨年度の内容に大きな変更はない。

5の「組織の運営改善と職員の資質向上」については、今年度拠点館が、照明LED化工事のため長期に休館するのに合わせて、普段なかなかできない先進地視察などを考えている。また旅費が少ないとのご指摘もあるが、コロナ禍で最近はおもてなしを使っている研修に代わってきており、会場以外で研修が受けられるようになった。

6の「施設管理」だが、施設を少しでも長く利用できるよう、今年度は照明の更新工事を行う。

○令和4年度予算について(7ページ・当日差替え資料)

今年度当初予算は、1億8535万1000円。(前年度比9923万円増)

図書館施設維持補修事業(LED化工事)が増の原因。

本日配布した、令和4年度高島市図書館年間計画については、休館中に現時点でどんなことができるかを書き出したもの。協議会の委員の皆さんと一緒に行うことができるものがあれば、またご案内させていただく予定。

- 「市民のニーズに応える」のニーズという語が6ページにたくさん出てくるが、ニーズでは後ろ向き。市民の欲求を高めるという視点が必要と思う。

- 本の森探検、訪問貸出、団体貸出を、コロナ前のように戻していただきたい。今年度高島小学校は訪問貸出を新たに始めた。子どもたちが本を手にとれる機会が増えた。こういった事業を少しずつ進めていってほしい。
- 個人的には、今年は学校でのブックトークを進めていきたい。コロナ禍で一時期、図書室に入ることも制限されて、子どもたちの足も遠のいていたが、少しずつ戻ってきている。これを機会にもっと、子どもたちにアピールしていきたい。
- 高島市立図書館のホームページに、協議会の要約がアップされるのが遅い。また、協議会のページになかなかたどりつけない。せっかく情報開示しているのにもったいない。
- 図書館から「こんなことを始めました」とか、若い人たちをターゲットにした取り組みを行ってほしい。ニーズは、図書館利用者からしか挙がってこない。市民全体の生活の中で考えられるようなことを図書館が提案してほしい。市民や行政に向けて。
- 市内の高校とタイアップ事業をしている図書館が増えている。高校生を募って本の紹介をしてもらったりとかしている（長浜市）そういう取り組みをしてもらいたい。